



普及センター情報 256 号
令和 3 年 4 月 13 日発行
久慈農業改良普及センター
経営指導課：0194-53-4989
産地育成課：0194-66-9683
地域指導課：0194-66-9684
FAX：0194-53-5009

新年度を迎えて ～ 所長挨拶 ～

4 月 1 日に一関農林振興センターから着任しました中村英明です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

久慈農業改良普及センター勤務は 2 度目となり、東日本大震災津波の 1 年後から 3 年間にわたり皆様からお世話になりました。

初めての赴任の際には、野田村の復旧水田での初の田植えをお手伝いした際に、田植機がぬかるみにはまって苦労した出来事も、今では大切な思い出のひとつ。その他にも、宇部川地区での圃場整備に向けた土壌調査や営農計画の作成、集落営農組織の設立、大川目地区でのライスセンターの建設、洋野町の山菜研究会との取組、新規就農者のお手伝い、青年クラブとの交流などなど様々なことが懐かしく思い出されます。

東日本大震災津波から 10 年が経過、そして離任してから 7 年、改めて管内の状況を見渡すと、皆様の力強い活躍や県内外からの多くの御支援により、復興が実現しつつあるのだなあと感じさせられました。

その一方で、新型コロナウイルス感染症の第 4 波も心配される異常な状況に、危機感を感じているものの、今が踏ん張りどころとも思っているところです。農政部と普及センターには「新型コロナウイルス感染症に係る農林水産業相談窓口」を引き続き設置していますので、何かお困り事等ございましたら、遠慮なく御相談ください。一緒に、乗り越えていきましょう。

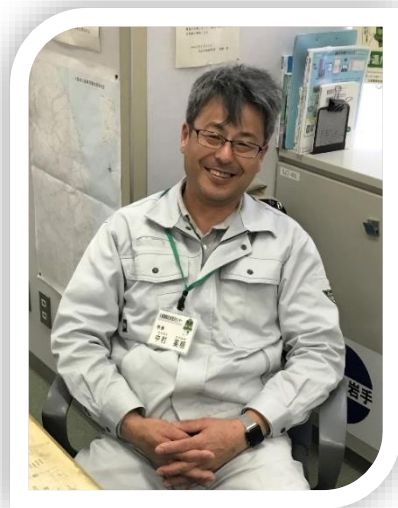
さて、本年の所内体制は、所長、「経営指導課」「産地育成課」「地域指導課」の 3 課長に加え 14 人の職員、計 18 人（昨年度+1 名）となっています。いわて県民計画（2019～2028）の 3 つの取り組みを通じて、農業者の所得向上とともに農村社会の活性化を着実に推進するため、職員全員が一丸となって皆様とともに取り組んでいきます。

本年度は、夏期におけるほうれんそうの収量アップに向けて“安価なミスト装置を利用したハウス内を冷却する新規実証試験”に加え、新規就農の更なる促進に向けて“就農希望者の研修受け入れ農家の確保”、経営規模の拡大に向けて“個別巡回による経営指導”などに重点的に取り組むこととしておりますので、皆様にはあぐりあすなどにより取組状況をお知らせいたします。

いわて県民計画（2019～2028）の 3 つの取組

- 1 意欲と能力のある経営体を育成し、農林水産業の振興を図ります
- 2 収益力の高い「食料・木材供給基地」をつくります
- 3 農林水産物の付加価値を高め、販路を広げます

最後になりますが、当センターの職員は若手がとても多く、指導する一方で、皆様から教わることも多いと思っています。若手職員には、明るく、農業者とともに考え活動すること、失敗を恐れずに新たな取組に果敢に取り組むよう指導していますので、皆様には若手職員の果敢な取組について御支援・御指導をいただき、育て上げていただければ幸いです。



所長 中村 英明



久慈農業改良普及センター活動体制



【 職員分担 】 ※(新) : 転入者 (次ページに紹介があります)

<p>マネジメント グループ</p>	 <p>(新) 所長 中村 英明</p>	 <p>(新) 技術主幹兼 経営指導課長 村上 和史</p>	 <p>産地育成課長 中西 商量</p>	 <p>技術主幹兼 地域指導課長 池野 圭祐</p>	
	チーム長	メンバー			
<p>①経営指導課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模経営体等の経営発展に向けた個別経営改善支援 ・酪農及び肉用牛の生産性向上支援 	 <p>上席農業普及員 高畑 博志 (肉用牛経営体育成)</p>	 <p>農業普及員 吉田 優里 (稲作等経営体育成、 農業農村指導士)</p>	 <p>(新) 技師 高橋 優希 (酪農経営体育成)</p>	 <p>技師 锹形 幸平 (菌床しいたけ経営体 育成、農福連携)</p>	 <p>(新) 技師 佐々木 美苗 (園芸経営体育成)</p>
<p>②産地育成課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産地の担い手や組織の育成支援 ・生産性向上技術の確立及び普及 ・高位安定生産技術導入による単収向上支援 	 <p>(新) 上席農業普及員 深澤 明子 (ほうれんそう、GAP)</p>	 <p>農業普及員 菅野 千聖 (やまぶどう、 アスパラガス)</p>	 <p>技師 川嶋 美紀 (ほうれんそう、ブロッコ リー、りんご、土壌診断)</p>	 <p>技師 佐々木 陽菜 (作物、花き、 農薬適正使用)</p>	 <p>技師 及川 優介 (寒じめほうれんそう、 果菜類)</p>
<p>③地域指導課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管内市町村との連携 ・新規就農者の確保及び育成 ・産地直売所の取組支援 ・生活研究グループや食の匠の活動支援 	 <p>上席農業普及員 輪達 公重 (認定農業者、 地域農業マスタープラン)</p>	 <p>主任農業普及員 藤尾 あゆみ</p>	 <p>(新) 農業普及員 小原 幸 (産直、女性組織、 食文化、6次産業化)</p>	 <p>農業普及員 菊地 雄大 (新規就農、青年農業者育成)</p>	



今年度の転入者（6名）の自己紹介



【①名前 ②出身地 ③担当 ④前任地 ⑤ひとこと】

- ① 中村 英明（なかむら ひであき）
- ② 盛岡市
- ③ 所長
- ④ 一関農林振興センター
- ⑤ 7年ぶりの再赴任となります。皆さんの温かい御協力のもと楽しく普及活動できた思い出がいっぱいあり、今回も楽しみに赴任しました。職員ともども、引き続き御支援よろしくをお願いします。

- ① 村上 和史（むらかみ やすし）
- ② 大船渡市
- ③ 技術主幹兼経営指導課長
- ④ 盛岡農業改良普及センター
- ⑤ 久慈地方に勤務するのは初めてです。農業者や関係機関の皆様との出会いや当地の山の幸・海の幸を大いに期待しています。経営指導課長として経営改善の支援に努めて参りますので、どうぞよろしくをお願いします。

- ① 深澤 明子（ふかさわ あきこ）
- ② 北上市
- ③ ほうれんそう、その他野菜、GAP
- ④ 八幡平農業改良普及センター
- ⑤ 初めての久慈勤務です。農家の皆様や関係機関から協力いただきながら、農家の皆様の所得向上や産地の発展に向けて、微力ながら精一杯取り組みます。よろしく願いいたします。

- ① 小原 幸（おばら みゆき）
- ② 奥州市
- ③ 6次産業、産直、女性農業者支援、他
- ④ 一関農業改良普及センター
- ⑤ 初めまして！一関から参りました。初の県北勤務です。難しい漢字の地名や名字の方が多く緊張していますが、早めに地域を覚えて皆さんのお力になれるよう頑張っていきたいと思います！どうぞよろしくをお願いします。

- ① 高橋 優希（たかはし ゆうき）
- ② 秋田県秋田市
- ③ 酪農経営支援等
- ④ 畜産研究所
- ⑤ 前任地は滝沢市で乳牛の飼養管理を担当していました。今回、久慈に住むのも普及の仕事も初めてなことばかりではありますが、いろいろと学びながら頑張りたいと思います。よろしくをお願いします！

- ① 佐々木 美苗（ささき みなえ）
- ② 盛岡市
- ③ 園芸経営体育成
- ④ 新採用
- ⑤ 初めての勤務、初めての一人暮らしが久慈です。皆さまの知恵と技術を吸収しながらたくさん勉強したいです！久慈の農業の発展に貢献できるように、一生懸命がんばります。よろしくをお願いします。

人事異動に伴い、久慈農業改良普及センターから転出した職員及び転出先は下記のとおりです。

- ▶ 竹澤 利和 宮古農林振興センター
- ▶ 井村 裕一 二戸農林振興センター
- ▶ 宮川 英幸 農業普及技術課 岩手県農業研究センター 県北農業研究所 駐在
- ▶ 齋藤 浩和 岩手県農業研究センター 畜産研究所
- ▶ 山本 明日香 二戸農業改良普及センター

普及現地情報
令和3年3月9日
久慈農業改良普及センター
記述者 宮川 英幸

ほうれんそう産地の現状を共有し、前へ進もう！！ ～ 久慈地方ほうれんそう産地拡大実践プラン検討会を開催 ～

久慈地域は、県内一のほうれんそう産地ですが、近年、高齢化による離農等に伴い、出荷量の減少が続いています。

こうした状況に歯止めをかけるため、平成30年度にJA野菜部会等で「ほうれんそう産地拡大実践プラン」(以下「実践プラン」)を策定し、これに基づき、翌年度から産地振興に取り組んできました。

3月4日にJA野菜部会等の主催で開催された「令和2年度実践プラン検討会」には、生産者・関係機関計32名が出席し、生産者を対象に

実施した産地の課題に係るインタビューの結果等を踏まえ、今後の産地の取組方向について意見交換を行いました。

生産者からは、「所得確保のために輸送コスト低減の取組が必要だ」など、流通・販売に関する意見が多く出され、輸送方法の見直しまで踏み込んだ議論になりました。

令和3年度は、今回出された意見等を踏まえ、現行の実践プランの見直しに向けた検討が進められる予定であり、引き続き、産地の前向きな取組を支援していきます。



意見交換に先立ち、産地の課題等について話題提供しました



生産者から輸送方法や出荷先など流通販売に関する意見が出されました

春の農作業安全月間

(4月15日～6月15日)



<スローガン>

全集中 ゆとりの呼吸で 安全作業

○家庭などでの安全管理の徹底

事故防止には、日常の『声かけ』が大切です。皆で事故に気をつけていくために、家族など周りの人に作業場所と帰宅時刻を知らせることを徹底しましょう。また、携帯電話を携帯し、連絡手段を絶やさないことも大切です。

○周囲に配慮した野焼きを

野焼きを行う際には、周囲の環境を確認しましょう。強風・乾燥時の野焼きは非常に危険です。また、野焼き草をよく乾燥させないで焼却すると、白煙が大量に発生します。周囲に迷惑がかからないように配慮をしましょう。

○作業環境の安全対策

農業機械での作業は、事前の安全確認が重要です。農業機械の点検、ほ場の段差やぬかるみ、周りに人がいないかなどの確認を行いましょう。反射材や安全フレームを装着し、シートベルトの着用を徹底しましょう。

○熱中症対策を十分に

暑さに慣れていない時期や高温多湿なビニールハウス内などでの農作業で熱中症になるケースがあります。また、農作業中のマスクの着用はそのリスクを更に高めます。水分、塩分補給はこまめに行い、適宜休憩をとりましょう。

農薬の適正使用について

1 農薬の使用前には、以下の内容について確認しましょう！

- ・使える作物名 ・希釈倍率 ・使用量 ・使用時期 ・使用回数 ・使用方法
- ・注意事項の熟読、必要な場合は防護装備の装着（保護メガネ、手袋、マスクなど）

2 農薬の使用後には、散布機の洗浄と記帳をしましょう！

- ・散布機の使用後は、ただちに洗浄しましょう。
- ・使用した農薬名、日時、作物名、濃度や量などの生産履歴を記帳しましょう。記帳することで使用回数や収穫できる日数の確認が可能となり、また使用基準を守っていることの証明になります。

～いわてアグリベンチャーネット掲載記事の紹介～

いわてアグリベンチャーネットでは、毎月、各地域の農業情報をお知らせしています。

【3月分の掲載記事】

○産地紹介：『JA 新いわて奥中山高原◎.レタス推進チームによる GlobalG.A.P 認証の取組～二戸地域～(二戸)』

○人物紹介：『ほのぼの家族 北上市鬼柳 高橋さん一家(中部)』

○『普及活動年報』 県内各地域の普及センターの取組を紹介します。

下記の URL、または右の QR コードからご覧ください。

<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/index.html>



久慈農業改良普及センターfacebook 公開中！

久慈寒次郎が、最新の情報や、HOT な情報をお届けします。

下記の URL、または右の QR コードからご覧ください。

<https://www.facebook.com/岩手県久慈農業改良普及センター-581601925540151/>

